

讀 書 漫 錄

此の數年來西洋學者の間に摩尼教研究の盛んに行はれて居ることは著しい現象であつて雑誌や單行の書物に於て、之に關するものが陸續として公にされてゐる。此の現象は勿論吐魯番・敦煌等を始め、中亞探險の齎した新資料が、この正體の鮮明ならざる教義の上に投ずる光明に刺戟と興味を生じた結果に外ならぬ。中亞の諸地方から東西諸國に將來せられた此の種の主要なる資料は今日ほゞ發表されてしまつたかと思ふが、獨りスタイン氏の獲たもので、大英博物館所藏の資料、特にその漢文で書かれた下(?)部讚というものと摩尼光佛教法儀略とは今尙公刊せられないやうである。尤も之に寓目した人は少くないし、我が矢吹博士はずつと以前に兩者とも寫眞して來られたのであるが、氏は一身に負ふたスタイン蒐集漢文書調査の職務に極めて忠實なる小ジャイルス博士に敬意を表せられる爲か、單に下部讚殘卷の後記と項目(各々一部分)を録し、「シュタイン寫本中最も珍品の一に數ふべし」と發表された外には、別に公けにせられた所はないやうである。たゞ石田學士が「摩尼光佛教法儀略に見えたる二三の言語に就いて」と題して發表せられた論文は、博士の將來せられた寫眞に據られたのであつて、資料の利用研究に於て喜ぶべきであるが、之によるも尙其の全文を見るを得ない。然るに此等の殘卷の研究は既にジャイルス博士より他の學者の手に移されたものと見えて、數月前巴里のペリオ教授より所謂下部讚の寫眞全部を送附せられた。